

放射線科（診断・IVR部門）

■ スタッフ

科長	佐久間 肇
副科長	市川 泰崇
医師	常勤 21名
	併任 5名
	非常勤 19名

■ 特色・診療対象疾患

放射線科では、X線写真、CT、MRI、核医学検査（PETを含む）の画像診断を行います。現在の医療は画像診断なくして成り立たません。しっかりとした画像診断が医療の質を保障する第1歩で、当診療科が大きな役割を担っています。また放射線科では、インターベンショナルラジオロジー（IVR）という専門領域があり、血管撮影装置やCT、超音波などで体の中を観察しながら皮膚から挿入したカテーテルなどを病巣部まで誘導し、がんや血管病変を治療します。侵襲性の少ない治療を希望される患者さんに適応があります。

1. 当科の特色

当科では、地域の基幹病院、研究機関としての特性を生かし、最適で先進的な画像診断やIVRによる低侵襲治療を提供しています。

【診療体制】

放射線診断専門医 19名

画像診断

当科では、最新の撮影機器を用いて、全身の様々な疾患を対象に画像診断を行っています。CT検査では、2管球CTや320列CT、dual energy CTといった最新装置を整備し、逐次近似法や人工知能による先進的な画像再構成を導入し、高精細なCT画像を低被ばくで撮影しています。MRI検査では、3台の高磁場3テスラ装置を含む計5台のMRI装置が稼働し、最新の撮影法を取り入れて、中枢神経や腹部骨盤領域、骨軟部領域などを中心に詳細な画像診断を行っています。核医学検査では、SPECT/CT一体型装置やPET/CT一体型装置を有し、質の高い検査を提供しています。

三重大学放射線科は、心臓MRIと心臓CTによる診断領域において先進的な診療と研究を行っており、国内だけでなくアジアにおける指導的役割を果たしています。また3テスラMRI装置や拡散強調画像などを用いて、様々な中枢神経疾患に対する詳細な診

断と研究を精力的に行っています。CT、MRI、核医学検査の全検査の読影を、放射線診断専門医が行い、質の高い画像診断を提供しています。地域の病院からの紹介による外来検査も行っています。

CT	
X線CT装置 (6台)	Discovery CT750 HD(GE) (救急外来)
	Aquilion ONE (東芝)
	Revolution (GE)
	LightSpeed VCT VISION (GE)
	SOMATOM Definition Flash (SIEMENS)
	SOMATOM Force (SIEMENS)
MRI	
MRI装置 (5台)	Ingenia 1.5T Omega (PHILIPS)
	Intera Achieva 1.5T Nova dual (PHILIPS)
	Ingenia 3.0T Elition X (PHILIPS)
	Ingenia 3.0T Omega HP (PHILIPS)
	MAGNETOM Vida 3.0T (SIEMENS)
核医学	
SPECT装置	NM 830 (GE)
SPECT/CT装置	Discovery NM/CT 670 (GE)
PET/CT装置 (2台)	Aquiduo (PCA-7000B) (キャノン)
	Discovery PET/CT 690 (GE)
サイクロترون	18/9MeV サイクロترون (JFE)

インターベンショナルラジオロジー（IVR）

IVRは血管系と非血管系に分類されますが、いずれの領域に関しても最先端の診療を行っています。血管系IVRでは大動脈ステントグラフトの分野で高い治療成績を挙げています。がんに対する非血管系IVRでは、肝細胞癌や肺癌、腎癌、骨腫瘍などの様々な腫瘍に対するラジオ波凝固療法（RFA）や凍結療法を行っており、世界をリードする存在として注目されており、県外からも多数の患者様が受診されています。またCTを用いた呼吸器関連のIVR（肺癌に対する経皮的生検術など）も行っています。他の診療科と緊密に連携しながら、外来診療および入院診療を行っています。

2. 主な診療対象疾患

画像診断

放射線科は内科系/外科系診療科・救急部などすべての診療科から依頼を受けて、CTやMRI、核医学などの検査を実施し、読影診断レポートを作成しています。診療対象となる疾患は脳神経、整形領域、頭頸部、胸部、心臓大血管、腹部、泌尿器系、生殖器系、四肢など全身の腫瘍、血管狭窄による虚血や梗塞、炎症、変性疾患など多岐にわたります。

循環器画像診断領域では、冠動脈疾患、各種心筋症や心サルコイドーシスなどの心筋疾患、心不全などを対象にMRIやCTを駆使して詳細な診断を行っています。

血管系 IVR

- 大動脈瘤や大動脈解離に対し、ステントグラフト内挿術を行っています。
- 末梢血管狭窄病変や腎動脈狭窄病変などに対し、経皮的血管形成術を行っています。
- 肺動静脈瘻に対する経皮的血管塞栓術を行っています。
- 外傷などによる出血に対し経動脈的緊急止血術を行っています。
- 肝細胞癌などの腫瘍や血管奇形などの血管系異常に対し、血管塞栓術を行っています。

非血管系 IVR

- 肺癌や転移性肝癌、腎腫瘍などの様々な悪性腫瘍に対し、ラジオ波焼灼術（RFA）や凍結療法などの治療を行っています。
- 癌の組織を採取する生検術を行っています。
- 体の中に溜まった膿を除去するための経皮的ドレナージ術を行っています。

その他にも、原発性アルドステロン症に対する副腎静脈サンプリングや、子宮筋腫などに対する子宮動脈塞栓術など多岐にわたる IVR 治療を実施しています。

活動実績**1. 診断・治療実績****画像診断**

CT 検査件数(R4 年度) :

外来 19388 件、入院 8592 件、合計 27980 件

MRI 検査件数(R4 年度) :

外来 9498 件、入院 2743 件、合計 12241 件

核医学検査件(R4 年度) :

外来 1722 件、入院 825 件、合計 2547 件

血管系 IVR(R4 年度)

- ステントグラフト内挿術(腹部) : 20 件
- ステントグラフト内挿術(胸部) : 19 件
- 肺動静脈瘻塞栓術 : 1 件
- 多発外傷に対する緊急動脈塞栓術 : 37 件
- 肝腫瘍への塞栓術、動注化学療法、化学塞栓術 (TAI, TAE, TACE) : 126 件 (緊急 4 件)
- 経皮経肝門脈塞栓術 (PTPE) : 6 件
- 腎動脈塞栓術 : 5 件
- その他、動脈塞栓術 : 4 件
- 内臓動脈瘤/出血に対するコイリング/塞栓術 : 5 件 ((緊急 2 件))
- 内分泌疾患静脈サンプリング : 20 件
- 血管奇形硬化療法 : 1 件
- リンパ管造影、塞栓術 : 2 件
- 子宮動脈塞栓術 (UAE) : 1 件

- CV ポート、PICC ポート留置 : 293 件
- 血管内異物回収 : 2 件 (準緊急 2 件)
- その他、血管造影 : 24 件

非血管系 IVR (R4 年度)

- 肺腫瘍 RFA : 53 件
- 肝腫瘍 RFA : 14 件
- 腎腫瘍 RFA : 23 件
- 骨軟部腫瘍 RFA : 5 件
- 類骨骨腫 RFA : 5 件
- 副腎 RFA : 1 件
- 腎腫瘍凍結療法 : 23 件
- 骨軟部腫瘍凍結療法 : 1 件
- 肺生検 : 3 件 + 診断科データ
- 肺腫瘍術前マーキング : 0 件 (+ 診断科データ)
- 軟部腫瘍術前マーキング : 1 件
- 肝生検 : 1 件
- 腎生検 : 16 件
- 骨生検 : 24 件
- リンパ節、軟部組織生検 : 2 例
- CT 透視下ドレナージ : 61 件
- リンパ管造影 : 2 件

2. 教育活動の実績

当科では、放射線科専攻医だけでなく、医学生の卒前実習や初期研修医の放射線科研修にも積極的に取り組んでいます。2022 年 4 月～2023 年 3 月において計 19 名の初期研修医の放射線科研修を実施しました。

3. 臨床研究等の実績**【現在当科で行っている臨床研究】**

- Asia CMR Registry ・アジアにおける心臓 MRI に関するレジストリ研究
- 機能的 MR 撮影法による頭頸部腫瘍の診断
- 肝受容体シンチグラフィ及び CT による肝線維化重症度評価に関する検討
- 骨シンチグラフィによる骨転移の定量的評価とその臨床有用性の検討
- 18F-FDG PET/CT 画像における膀胱周辺の偽像 (アーチファクト)に関する検討
- MRI 撮像条件の最適化に関する研究
- 心疾患患者における包括的心臓 MRI の予後予測能に関する検討
- CT 画像再構成条件の最適化に関する検討
- 冠動脈 MRA (magnetic resonance angiography) の画像再構成に関する研究
- 造影 MRI 画像の画質評価に関する研究
- 人工知能を用いた、心臓 MRI と臨床情報の関係の予測
- 睡眠呼吸障害における心筋血流 MRI の有用性に関する検討
- 全国国立大学附属病院における CT 撮影線量調査
- 3 テスラ心筋血流 MRI の心筋血流定量解析法の妥当性に関する研究
- 冠動脈 CT から算出した FFR 推定値の検討
- 逐次近似再構成を用いた低被曝冠動脈 CT の臨床

的有用性: 多施設無作為比較試験

- 三重県における心臓 CT 検査に関する実態調査
- 冠動脈疾患における肺気腫と心臓 MRI 指標の関連に関する検討
- 血管撮影領域に関する診断参考レベルによる医療被ばく最適化の実態調査
- SWI Brush sign を示す疾患に、皮質内にも SWI での異常低信号 (Cortical brush sign) を示した症例の報告
- 偽腔開存型慢性大動脈解離における MRI 血流量定量解析の有用性
- 末梢動脈疾患に対する血管内治療の医療被ばくに関する多施設共同後向き観察研究
- 大動脈・動脈疾患に対するステントグラフト内挿術の有用性の検討
- 腎腫瘍に対するラジオ波焼灼術後、凍結療法後の CT ガイド下経皮的針生検の臨床有用性の検討
- 腹部大動脈瘤に対する Zenith Alpha Abdominal ステントグラフトシステムの有用性を検討する多施設後向き観察研究
- シネ MRI 及び拡散強調画像を用いた合併症のない偽腔開存型 B 型大動脈解離の予後予測
- 肺腫瘍患者のラジオ波焼灼 (RFA) 治療後の予後調査
- 腎腫瘍患者の経皮的アブレーション治療後の予後調査
- 腹部ステントグラフト内挿術前下腸間膜動脈塞栓のランダム化比較試験
- 消化器癌肝転移診断における低エネルギー仮想単色 X 線画像の有用性に関する多機関共同後向き観察研究
- Radiomics による肝細胞癌分子標的薬治療効果の予測に関する多機関共同後向き観察研究

【2022 年の主な学術論文業績】

1. Kubooka M, Ishida M, Takafuji M, et al. Associating the Severity of Emphysema with Coronary Flow Reserve and Left Atrial Conduit Function for the Emphysema Patients with Known or Suspected Coronary Artery Disease. *Magn Reson Med Sci*. 2022 Dec 13.
2. Nagata C, Fujimori M, Yamanaka T, et al. Percutaneous Thermal Ablation for Managing Small Renal Metastatic Tumors. *Interv Radiol*. 2022;7(3):85-92.
3. Takada A, Ichikawa Y, Nakamura S, et al. Preliminary results of reduced myocardial blood flow in the subacute phase after radiation therapy for thoracic esophageal cancer: A quantitative analysis with stress dynamic myocardial computed tomography perfusion imaging. *Radiother Oncol*. 2022;177:191-196.
4. Hashizume K, Ichikawa Y, Tomita Y, et al. Impact of CT tube-voltage and bone density on the quantitative assessment of tracer uptake in Tc-99m bone SPECT/CT: A phantom study. *Phys Med*. 2022;104:18-22.
5. Michallek F, Nakamura S, Kurita T, et al. Fractal Analysis of Dynamic Stress CT-Perfusion Imaging for Detection of Hemodynamically Relevant Coronary Artery Disease. *JACC Cardiovasc Imaging*. 2022;15:1591-1601.
6. Toyomasu Y, Matsui K, Omori K, et al. Tenascin C in radiation-induced lung damage: Pathological expression and serum level elevation. *Thorac Cancer*. 2022;13:2904-2907.
7. Tanaka F, Umino M, Maeda M, et al. Tumor blood flow and apparent diffusion coefficient histogram analysis for differentiating malignant salivary tumors from pleomorphic adenomas and Warthin's tumors. *Sci Rep*. 2022;12:5947.
8. Takafuji M, Kitagawa K, Mizutani S, et al. Deep-learning reconstruction to improve image quality of myocardial dynamic CT perfusion: comparison with hybrid iterative reconstruction. *Clin Radiol*. 2022;77:e771-e775.
9. Tomita Y, Ichikawa Y, Sakuma H. Shine-through artifact due to high-radioactivity bladder and bowel gas in 18F-FDG PET/CT: impact of time-of-flight algorithm and radioactivity concentration of urine in the bladder on the occurrence of the artifacts. *Ann Nucl Med*. 2022;36:736-745.
10. Higashigawa T, Ichikawa Y, Chino S, et al. Usefulness of 18F-FDG PET/computed tomography in differentiating between subacute and chronic aortic dissection: initial investigation. *Nucl Med Commun*. 2022;43:794-799.
11. Ouchi T, Kato N, Sakuma H. Additional analysis about relevance of residual dissection after open surgical repair to the development of stent graft-induced new entry. *Ann Thorac Surg*. 2022:S0003-4975(22)00678-6.
12. Inoue K, Nakayama R, Isoshima S, et al. Semiautomated Segmentation and Volume Measurements of Cervical Carotid High-Signal Plaques Using 3D Turbo Spin-Echo T1-Weighted Black-Blood Vessel Wall Imaging: A Preliminary Study. *Diagnostics (Basel)*. 2022;12:1014.
13. Michallek F, Nakamura S, Ota H, et al. Fractal analysis of 4D dynamic myocardial stress-CT perfusion imaging differentiates micro- and macrovascular ischemia in a multi-center proof-of-concept study. *Sci Rep*. 2022;12:5085.
14. Sato M, Ichikawa Y, Domae K, et al. Deep learning image reconstruction for improving image quality of contrast-enhanced dual-energy CT in abdomen. *Eur Radiol*. 2022;32:5499-5507.
15. Ouchi T, Kato N, Kato H, et al. Utility of Psoas Muscle Area in Selecting Older Patients Feasible for Thoracic Endovascular Aortic Repair. *Ann Thorac Surg*. 2022;114:750-756.
16. Aoki Y, Maeda M, Kishi S, et al. Central nervous system involvement of systemic ALK-positive histiocytosis with KIF5B-ALK fusion. *Radiol Case Rep*. 2022;17:3867-3870.
17. Fukui H, Fujimori M, Yamanaka T, et al. Cryptococcus granuloma mimicking local progressed tumor after cryoablation of renal cell carcinoma: A case report. *Radiol Case Rep*. 2022;17:3419-3424.
18. Taniguchi A, Toyomasu Y, Takada A, et al. Intra-arterial chemoradiotherapy for locally advanced buccal mucosal cancer in an elderly patient with multiple comorbidities: A case report. *Cancer Rep (Hoboken)*. 2022;5:e1629.
19. Tanaka F, Umino M, Maeda M, et al. Pseudocontinuous Arterial Spin Labeling: Clinical Applications and Usefulness in Head and Neck Entities. *Cancers (Basel)*. 2022;14:3872.
20. Sakuma H. Abdominal Aortic Aneurysm: Prediction of Rupture Risk with MR Elastography. *Radiology*. 2022;304:730-731.
21. Ito H, Ogihara Y, Ishida M, et al. Assessment of Pseudocoarctation of the Aorta with Saccular Aneurysms by Four-Dimensional Flow Magnetic Resonance Imaging and Histological Analysis. *Ann Vasc Dis*. 2022;15:348-351.

■ 今後の展望

日々進歩する医療界の中で、放射線科領域は特にその変化と発展が目覚ましい分野で、画像診断や IVR は、臨床と研究の両面からその重要性が増しています。三重大学放射線科では、全身の様々な領域における画像診断と IVR に関する最先端の医療を提供する一方、国内外に最新の研究成果を発信しています。また当科は、この地域の放射線科診療における中核的な役割を担っており、他科とも連携しながら、患者様にとって質の高い放射線診療を提供できるよう日々努めています。

▶ https://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/housha_gazou/